

目 次

まえがき iii

第 I 部

日本語研究の3つの分野

—音韻・語彙/レキシコン・文法を対象に—

第1章 連濁と濁音始まりの付属形式 —個別言語研究の意義—	高山 知明	2
第2章 有声性の強さから見た日本語の不透明現象 —濁りの表示による透明化—	田中 伸一	26
第3章 複合字音語基分類再考 —「語種」の観点から—	斎藤 倫明	52
第4章 「名詞+動詞」複合語の統語範疇と意味的カテゴリー	由本 陽子	80

第5章	世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性 —「する」言語と「なる」言語，高コンテキスト言語と 低コンテキスト言語の再検討を中心に—	野田 尚史	106
-----	--	-------	-----

第6章	日本語の「非終止形述語」文末形式のタイポロジー —他言語との比較を通じて—	堀江 薫	133
-----	---	------	-----

第 II 部

多様な可能性

—2つのテーマを対象に—

第7章	「城の崎にて」を読む —語りの構造と描写のストラテジー—	山口 治彦	170
-----	--	-------	-----

第8章	日本語の韻文文学の表現と文法	森山 卓郎	195
-----	-------------------------	-------	-----

第9章	日本語研究の海外発信：副詞節の事例研究	遠藤 喜雄	222
-----	------------------------------	-------	-----

第10章 東北方言の特質	
—言語的発想法の視点から—	
..... 小林 隆	248
編者・執筆者紹介	277